

- 家族の手をわずらわせることなく出かける。町外での乗車もできるとうれしいです。西高橋70歳代女性
- 老人世帯で車の運転ができません。早く実現を望みます。東水沼60歳代女性
- これからの高齢社会にそなえ、住み良いまちづくりに反映させてください。稲毛田70歳代男性

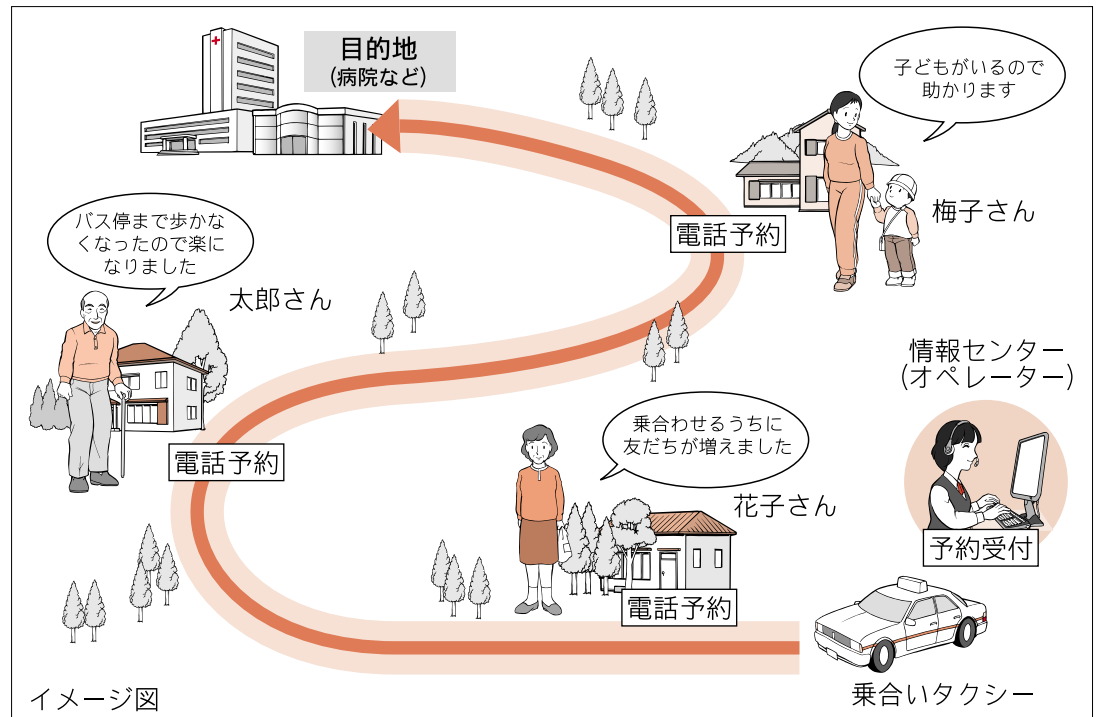
声こえ

(アンケートの自由意見から)

- 今は車を運転しているので必要ないが、運転できなくなったときには利用したいと思う。祖母井60歳代男性
- 低料金で目的地に行けるのは大変ありがたいこと。高齢者にはうれしい企画ですね。西水沼60歳代女性
- 利用者が多くて待たされるのではないですか。東水沼80歳以上男性

実際の運行を想定してみます。

- 1** 芳志戸の花子さんから情報センターに電話が入ります。
花子さん「芳志戸〇〇番地の花子ですが、今日は10時頃に祖母井の〇〇商店に行きたいので、迎えに来てもらえますか？」
オペレーター「はい。こちらは芳賀ふれあいタクシー(仮称)です。芳志戸の花子さんですね。10時頃に〇〇商店に行きたいですね。少々お待ちいただけますか。」
- 2** オペレーターが予約状況をパソコンで確認します。
オペレーター「はい、大丈夫です。では9時40分頃に自宅に迎えに行きますのでお待ちください。」
- 3** 稲毛田の太郎さんからも予約の電話が入ります。
太郎さん「稲毛田〇〇番地の太郎ですが、10時頃に祖母井の〇〇医院に行きたいので、迎えに来てもらえますか？」
オペレーター「稲毛田の太郎さんですね。10時頃に〇〇医院に行きたいのですか。少々お待ちいただけますか。」
- 4** オペレーターが予約状況をパソコンで確認します。
オペレーター「はい、大丈夫です。では9時50分頃に自宅に迎えに行きますのでお待ちください。」
- 5** オペレーターは、花子さんと太郎さんからの予約申し込みの状況をタクシー運転手に送信します。
運転手はオペレーターの指示により、芳志戸の花子さんの家に行きます。
称「お迎えにあがりました。」
- 6** 運転手は芳賀ふれあいタクシー(仮称)です。お迎えにあがりました。
次は運転手は、稲毛田の太郎さんの家に行きます。
運転手「芳賀ふれあいタクシー(仮称)です。お迎えにあがりました。」
- 7** 次は運転手は、稲毛田の太郎さんの家に行きます。
運転手「芳賀ふれあいタクシー(仮称)です。お迎えにあがりました。」
- 8** 花子さんと太郎さんを乗せたタクシーは、まず〇〇医院で太郎さんを降ろします。
運転手「〇〇医院に着きました。ご利用ありがとうございます。」
太郎さん「お世話になりました。チケット(料金)はこれです。」
- 9** 次に〇〇商店で花子さんを降ろします。
運転手「〇〇商店に着きました。ご利用ありがとうございます。」
花子さん「お世話になりました。チケット(料金)はこれです。」
- 10** 帰りはそれぞれの場所から自宅まで乗せてもらいたいと情報センターに申し込みをします。



アンケートの結果から新たな施策の導入について検討する必要がありますと思われる。県内の市町村でも、町営による巡回バスを運行している例があります。巡回バスは決められた路線を時刻表どおり運行するため、利用者は停留所まで出向く必要があります。また、乗客の有無にかかわらず時刻表どおり運行しなければなりません。事実、県内の自治体の町営バスの運行状況を調査したところ、便によっては乗客がほとんどいない状況もあるようです。そんな状況にもかかわらず、巡回バスについて「停留所が遠い」「近くにバス停が欲しい」「路線を増やして欲しい」などの要望が出され、運行する路線を決めることだけでも町民の皆さんの意見をまとめるのは非常に難しいのが現実です。

また、乗客がいないにもかかわらず、燃料費の無駄のみならず、排気ガスをまき散らすことにもなり、環境に配慮した行政を推進している本町の理念から外れることにもなります。

これに対して、町が現在検討している新たな公共交通システムは、事前に電話などに

より乗車申し込みのあった人の家を順次回りながら、それぞれの目的地で降ろすという「乗り合いタクシー」方式です。巡回バスとの大きな違いは、申し込みのあった人それぞれの家を回りますので、バスのように決まった路線もなく、また停留所もありません。遠い停留所まで歩かなければならないといった負担もなくなります。もちろん、利用申し込みがない場合は運行しませんので、非常に効率的なシステムといえます。

この新たな交通システムを導入することにより、とくく家にひきこもりやすい高齢者の方々に対して、通院や買物以外に生涯学習講座への参加機会を提供することも可能になり、生きがい対策にもつながります。

現在、全国で13の自治体がこの交通システムを導入して利用者から好評を得ているようです。

本町においても導入に向けてさらに研究を進め、運行が実現できるよう努力していきます。

新たなコミュニティ交通システム



ご意見・お問い合わせは
企画課政策推進室【☎028(677)6012】



福島県での運行例